

令和7年度家庭教育支援実践交流会 開催報告

日時 令和8年1月22日(木)13:30~16:30

会場 滋賀県庁 東館7階大会議室

参加人数 38名(会場20名、オンライン18名)

内容 ○実践事例発表、質疑応答
「栗東市の家庭教育支援」

◆行政の取組

栗東市教育委員会事務局学校教育課 指導主事 松田 愛 氏、指導主事 辻 顕史 氏

◆治田東小学校家庭教育支援チームの取組

栗東市立治田東小学校 校長 横井 久美香 氏、家庭教育支援員 奥村 よし子 氏

○助言:上村 文子 氏(滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー・家庭教育支援アドバイザー)

○グループ別情報交換

「家庭教育支援活動の成果と課題、さらなる充実に向けて」

○総括:上村 文子 氏(滋賀県スクールソーシャルワークスーパーバイザー・家庭教育支援アドバイザー)



当日の様子



【実践事例発表:(写真左から)
奥村 よし子氏、松田 愛氏、辻 顕史氏、横井 久美香氏】



【助言:上村 文子 氏】



【グループ別情報交換】



【総括:上村 文子 氏】

【参加者の感想より】

I. 実践事例紹介

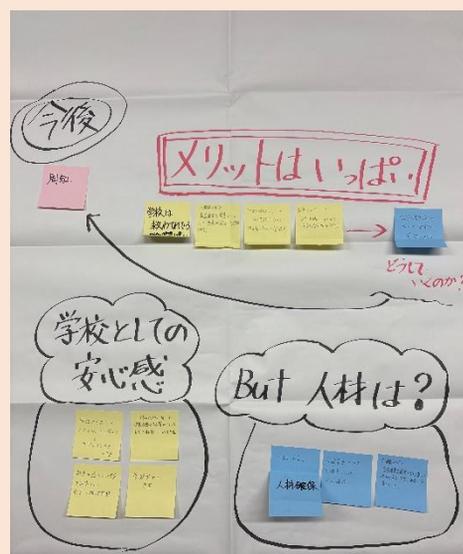
- 支援を必要としている子どもや家庭にどのような体制で関わっておられるのかがよくわかりました。家庭教育支援員さんの役割は大きく、多くの家庭が支えてもらっていると思います。本市にもこのような体制を取り入れたいと思いました。
- 様々な人が、困っている子ども、困っている家庭に関わることの大切さ、いろんな人に関わり育ててもらうことが本当に大切であると感じました。
- 自身の勤務校も例外ではなく、不登校生徒が多い状況の中で、この生徒たちにどのような支援が効果的であるかを考えて実践していくことが重要であると考えます。治田東小学校の『ほのぼのルーム』の活用を知り、自身の勤務校においても活用できるところがあると思いました。
- 家庭教育支援員さんの位置づけ、子どもたちとのかかわり方等、自校の不登校児と重ね合わせて考えさせていただき機会をいただき、ありがとうございました。子どもと学校との橋渡しが、今までの実績の積み重ねによってとてもスムーズに行われており、その結果、子どもが、「今日も来てよかった」と感じられる時間につながっていると感じました。

II. 助言・総括

- 上村先生のお話は、何度聞いてもいつも学ぶことが多いです。改めて、自分のことをふり返る機会にもなりました。私は小学校教員なので、お話を聞きながらこれまで担任した子の顔や保護者の顔が浮かんできました。今は行政職員という立場ではありますが、現場に戻ったときに今日の学びを活かしていきたいと思いました。
- 「受援力」、「援助希求」等のお話を聞き大変勉強になりました。困っている子はほとんどこの力が弱いと感じます。雑談から相談につなぐ「雑相」(ざっそう)という言葉が素敵だなと思いました。実践したいです。
- 「子どもに対しても保護者に対しても見たことを伝えることが認めることになる」、「パワーが不足している時こそ当たり前注目する」等、直接子どもや保護者に対応するときのヒントや家庭教育支援員さんに活動していただく上でのつながりのヒント等をいただきました。
- 「子どもは今を生きている。その時々温かい関わりが必要。」という言葉が心に残りました。

III. グループ別情報交換

- 普段お話しする機会のない現場の方々とうっくり話すことができ、貴重な機会となりました。様々な視点からの意見を聴くことができ、たくさん学ばせていただきました。
- 行政、現場、大学生の視点から、自身の考えを深めることができました。来年度に向けて改善点を整理することができました。
- 家庭教育支援という役割がいかに大切であるか、話し合いの中で理解できました。現在本市にはそのような役割を担う体制になっていませんが、それに代わる(近づける)支援について考えてみたいと思います。



【参考：グループ別情報交換で作成されたシート】